

酒とパソコンと少々のミルク

最近気になる3つのグラフ

【1つめのグラフ】

乳牛の泌乳能力は飛躍的に伸びてきている一方で、繁殖成績が年々悪くなってきて、最近では安定して悪いですね。とくに宮崎県では他県に比べ分娩間隔が長いのです。分娩間隔が長くなると、搾乳日数が長くなり、経産牛1頭当たりの乳量は減少してしまい経営的に相当な損失です。何故、こんなに繁殖成績が悪くなってしまったのでしょうか。

3月号で、畜産試験場の鍋西さんが「分娩間隔を短縮するためのヒント」を書いておられますので、もう一度お読み頂きたいと思います。

【2つめのグラフ】

「乳を搾ると繁殖が悪い」と思われている方も多いと思います。しかし、実はそうではないようです。

10年程前のデータで恐縮ですが、県内の牛群検定の成績をまとめたことがあります。その結果、乳量の多い牛群ほど分娩間隔が短いことがわかりました。しかも、乳量の低い牛群では分娩間隔のバラツキが大きかったのです。

鍋西さんも、最近、西諸県地域を対象に同じような調査を行い、同じような結果を出しています。

乳を搾ろうとすると、繁殖が悪くなる。繁殖を良く回してやれば、自然と乳が出てくる。そんな関係ではないでしょうか。

【3つめのグラフ】

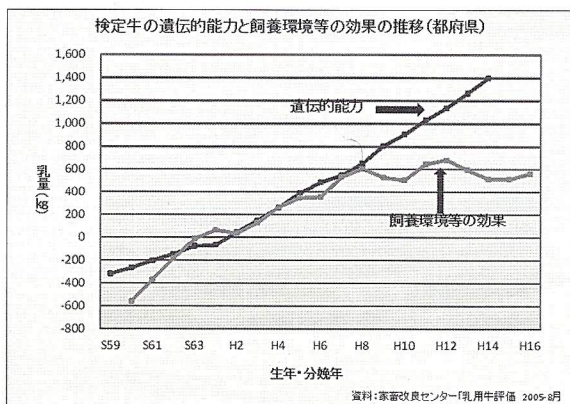
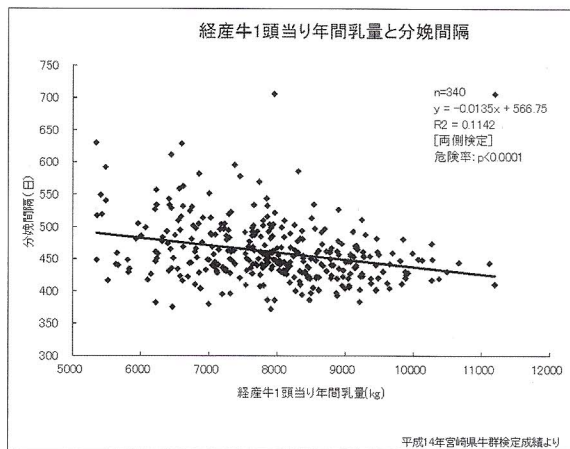
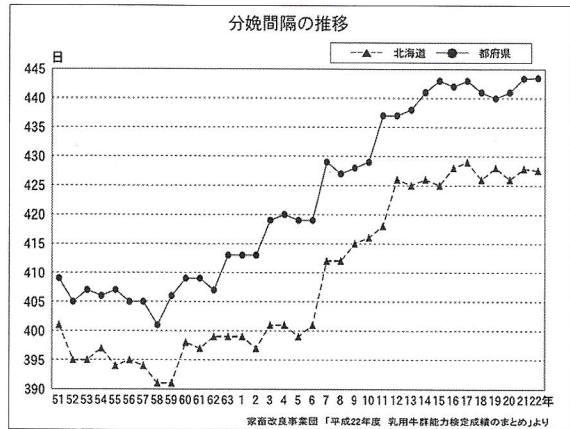
個体の乳量は遺伝的能力と飼養環境等の効果で決まってきます。遺伝的能力が伸びても、飼養環境等の効果が低いと、乳量は思うように伸びてきません。

注目したいことは、最近では飼養環境等の効果が伸び悩んでいることです。

最近の分娩間隔の長期化はこのようなことも

背景にあるのではないのでしょうか。

乳牛の泌乳能力の上昇に伴って、その能力に対応できる飼養管理の改善について改めて考える必要があると思うのです。



(成光昭男)